夏の思い出に昔あそび！

キッズランド「遊びの縁日」

1_簡単なようで難しいわなげ　2_自分で描いた手づくり缶バッジ　3_よーく的を狙って、景品をゲット！

８月16日、こじゅうろうキッズランドで夏のイベント「あそびの縁日」が行われ、施設を利用する家族連れでにぎわいを見せていました。会場には、ヨーヨー釣りやわなげ、射的や缶バッジづくりといった昔ながらの遊びが用意され、子どもたちは各コーナーを回り楽しんでいました。

また同日、こまとけん玉のパフォーマンスショーも行われ、難易度の高い技が披露されると歓声と拍手が送られていました。

こじゅうろうキッズランドは、８月21日で開館から２周年を迎え、これまで市内外から延べ約14万人に利用いただきました。現在、新型コロナウイルス感染症の拡大が心配されていますが、施設内では万全の感染症対策を行っています。今後も魅力あるイベントを企画し、多くのお客さまに楽しんでもらえる施設を目指していきます。

伝統のあかり　幻想的に

白石和紙あかり展

８月８日から20日まで、壽丸屋敷で「第18回白石和紙あかり展」が開催されました。白石和紙づくりの技術を継承し、生産を担っているまちづくり団体「蔵富人（くらふと）」が主催するこのイベントは、白石和紙を材料に制作したあかりを通して、白石和紙の魅力を多くの人に知ってもらおうと毎年開催されています。

あかりは、木の枝やツルなどで作った骨組みに電球をつけ、白石和紙を貼り付けたもの。自然の形を生かした造形と、和紙を通したあたたかみある光が特徴です。会場には、６・７月に開催した「白石和紙あかり制作ワークショップ」の参加者やスタッフなどの作品約80点が展示されました。来場者は作品を眺めながら、夏の壽丸屋敷を彩るやわらかな光を楽しんでいました。

また、小原中学校と白石高校手芸部の生徒が制作した白石和紙を使ったうちわや文鎮なども展示され、会場を華やかにしていました。

1_思い思いにつくられたあかりが展示されました　2_最優秀賞に選ばれたマムーディー・ソニアさん（仙台市）の作品　3_市内学生の和紙作品も展示

将来について考えました

職業人に聞く会

７月29日、白石中学校で「職業人に聞く会」が開催され、講師として本市地域おこし協力隊の青木依里（あおきえり）さんが「わたしの職業体験」と題した授業を行いました。

青木さんは、新聞記者やラジオパーソナリティなどの経験があり、現在は絵本作家を目指しながら白石の魅力を発信しています。生徒たちを前に「急いで職業を決めるのではなく、将来の生き方を考えながら職業を考えて欲しい」と自身の経験を交えながら話していました。

▲生徒たちにこれまでの職業体験を話す青木さん

ササニシキ米粉の和菓子が誕生

まめいちぼーろが完成

▲和三盆とシナモンが香りを引き立てます

仙台市にある和菓子店「和菓子まめいち」が白石産ササニシキの米粉を使った和菓子「まめいちぼーろ」の販売を始めました。白石産ササニシキのブランド化に向け活動する本市地域おこし協力隊の竹田祐博（たけだよしひろ）さんの「ササニシキをさまざまな形で知ってもらいたい」という思いに賛同し、和菓子店が開発したものです。

「まめいちぼーろ」は、小麦ではなく米粉を使っているので小麦アレルギーの方も安心して食べることができるお菓子となっています。

ふるさとへの思いを新しい歌に

小原学園「スクールソングプロジェクト」

７月31日、本年度から「小原学園」を愛称に、地域と連携して学校運営する小原小中学校で、地域の愛唱歌をつくる「スクールソングプロジェクト」が行われました。小原地区のシンボルとなる歌を作ろうと同校が企画し、この日参加した小中学生や地域の方など35人が、歌詞のアイデアやキーワードを出し合いました。

小原地区出身者など多くの方からもアイデアを募り、同地区在住のシンガー・ソングライター、佐藤美佐子（さとうみさこ）さんが作詞・作曲を手掛けます。

▲ふるさとへの思いや未来に残したい小原の魅力をキーワードに、小原地区の歌をつくります